

曹洞宗は、仏教を開かれたお釈迦さま、大本山永平寺をお開きになられた道元^{どうげん}禅師と大本山總持寺をお開きになられた瑩山^{えいへいじ}禅師を、最も大切にいたします。

お釈迦さまは、今から約二千五百年前、現在のネパールのルンビニーの地で釈迦族^{しゃか}の王子としてお生まれになりましたが、深く人生の問題に苦悩され、二十九歳^{しゅっけ}で出家をされました。インドにおいて六年もの厳しい修行^{のち}の後、ブッダガヤーの地で坐禅の修行によりおさとりになられました。

以後、八十歳でクシナガラ^{ぶっぼう}の地でお亡くなりになるまで、弟子の育成と仏法^{でんどう}を伝道される旅をお続けになりました。

道元^{どうげん}禅師は、今からおおよそ八百年前に京都にお生まれになり、十四歳の時に出家^{ひえいざん}をして比叡山にて修行をされました。二十四歳で仏道を求めて現在の中国である宋の国に渡り、如浄^{にょじょう}禅師のもとで修行に励まれ、「正伝^{しょうでん}の仏法^{ぶっぼう}」を相続^{そうぞく}されました。道元禅師の相続された「正伝の仏法」とは、お釈迦さまから伝えられた「坐禅」を中心とした教えです。

二十八歳で帰国した^{あと}後、教えを伝えるために修行者の養成と一般の人々への教化^{きょうか}を行い、四十五歳のときに越前^{えちぜん}の地に、後の永平寺となる大仏寺を建立^{たいぶつじ}しました。その後^こも修行生活を送り、五十四歳でその生涯を閉じられたのです。

瑩山^{けいざん}禅師は、道元禅師が亡くなられた^{のち}後に越前にお生まれになりました。八歳で永平寺に入り修行を始め、十三歳で正式な僧侶となり、十九歳になると諸国行脚^{あんぎゃ}の志^{こころざし}をたてて^{ぶつどう}仏道を求める生活に精進^{しょうじん}されました。

以来、さまざまな地において仏法を伝えられ、五十八歳のとき、諸嶽寺^{もろおかでら}の寄進^{きしん}をうけられると、そのお寺を總持寺と名付けました。後に總持寺の住職を峨山^{がさん}禅師に譲^{ゆず}り、その翌年に六十二歳でその生涯を閉じられました。

瑩山禅師は、多くの優秀な弟子を育てられ、一般の人々にも広く教えを伝えられて曹洞宗が発展する基礎を築かれました。

このように、曹洞宗はお釈迦さまより歴代の祖師方^{そし}によって相続^{そうぞく}されてきた「正伝の仏法」、つまり「坐禅」の教えをよりどころとする宗派です。

お釈迦さま、道元禅師、瑩山禅師の「み教え^{おし}」を信じ、その教えに導かれて、毎日

の生活の行い一つひとつを大切にすることを心がけたならば、身と心が^{ととの}調えられ、
私たちのなかにある「^{ほとけ}仏の姿」が明らかとなります。

この自らの「仏の姿」を、日々の暮らしの中で意識して生活し、他者への思いやり
を大切にし、共に生きる喜びを見いだしていくことが、曹洞宗の目指す生き方といえ
ましょう。

— 終 —